

中南米日系社会との連携に関する有識者懇談会

岸田外務大臣挨拶

本日は有識者懇談会にご参集いただき、ありがとうございます。

中南米地域は、日本外交にとり、基本的価値観を共有し、高い経済的潜在力を持ち、大変親日的である点で、極めて重要です。そして、特にこの親日感情の根底には、210万人超の世界最大の日系社会があります。

安倍総理は、2014年の中南米訪問の際、

- ① 日系人が現地で築いた信頼こそ中南米地域の日本に対する信頼の基礎である。
- ② 中南米の未来を担う若いリーダー達との絆を強化する。
- ③ 日系人が誇りを持てる日本を作るよう努力し、日本と日系社会の絆を深くする。

という3点を明確にされ、この考えが日本と日系社会の連携の座標軸となっています。

2000年12月に海外移住審議会の最後の意見書を提出頂いてから16年余りが経過をいたしました。中南米日系社会は世代交代の中にあり、その活動も変化しています。新しい世代には、先人が大変なご苦勞の上に築いてきた今日の信頼を、しっかりと受け継いで頂く必要があります。そして日本も新しい世代としっかり連携して、多層的で双方向の関係を発展させていく必要があります。

これまで日本側では、政府、地方自治体、経済界、学会、市民社会等様々な主体が日系社会と多様な関係をなしてきました。

本日は、地域研究の第一人者である堀坂上智大学名誉教授を座長として、各界を代表する方々にお集り頂きました。懇談会の御提言は、総理に報告し、政府全体で共有・活用する考えですので、皆さまの献身的なご貢献を、心よりお願い申し上げます。

(了)